

理学療法・作業療法学科 2 年

授業科目名	臨床心理学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	臨床心理学
担当講師	高田 豊司 先生
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 臨床心理士 》
授業の目的	心理アセスメント、心理面接技法など臨床心理学の基礎的知識と技能を学ぶことで、良好な対人コミュニケーション技術を習得し、臨床心理士や精神科医等、他職種との連携を図れるようになる。
授業の概要	<p>1回 臨床心理学とは（オリエンテーション）</p> <p>2回 心理アセスメントⅠ（アセスメントの種類と知的・発達のアセスメント）</p> <p>3回 心理アセスメントⅡ（質問紙法）</p> <p>4回 心理アセスメントⅢ（投映法）</p> <p>5回 心理療法Ⅰ-精神分析的な心理療法と来談者中心療法-</p> <p>6回 心理療法Ⅱ-行動療法と認知行動療法-</p> <p>7回 心理療法Ⅲ-その他の心理療法-</p> <p>8回 ストレス・マネジメント</p> <p>9回 怒りのマネジメント</p> <p>10回 ソーシャルスキル・トレーニング</p> <p>11回 発達障害の心理療法</p> <p>12回 精神障害の心理療法</p> <p>13回 相談面接の技法Ⅰ（相談環境の設定とマイクロカウンセリングの技法）</p> <p>14回 相談面接の技法Ⅱ（紙上応答訓練・ロールプレイ）</p> <p>15回 定期テスト</p> <p>*オンデマンドでの講義になることがあります。</p>
テキスト 参考書	授業時に適宜資料を配布する。
評価の方法	定期テスト 60 点（資料、講義ノート持ち込み可） 出席 15 点、レポート 25 点
授業の形式 受講上の注意	講義による知的理解だけではなく、架空事例などを提示したり、具体的なワークを行ったりすることで体験的に理解を深められるように進める。そのため、積極的な参加を求める。

理学療法・作業療法学科2年

授業科目名	精神医学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神医学Ⅱ						
担当講師	塚原健司						
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 関連資格：精神保健福祉士・公認心理士						
授業の目的	・OT・PTとして業務を進めていく上で必要な精神医学の理解を深める。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 薬理学 2 気分障害 I 3 気分障害 II 4 パーソナリティ障害 I 5 パーソナリティ障害 II 6 摂食障害 7 神経症性障害 I 8 神経症性障害 II 9 発達障害 I 10 発達障害 II 11 不登校・知的障害 12 精神障害と生活システム 13 自殺予防 14 期末テスト対策 15 期末テスト <p>・学習の進捗や状況によって変更することもあります。 ・適時DVDや事例などの資料も利用して分かり易い講義になるように努力します。</p>						
テキスト 参考書	臨床につながる精神医学 渡辺雅幸 医歯薬出版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 上野武治 医学書院						
評価の方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">授業態度</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> </table>	授業態度	20%	レポート	30%	期末テスト	50%
授業態度	20%						
レポート	30%						
期末テスト	50%						
授業の形式 受講上の注意	・基本的には講義形式ですがグループワークもあります。積極的な授業への参加を期待します。						

理学療法・作業療法学科 2 年

授業科目名	老年医学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	老年医学
担当講師	藤村 忠史
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格：理学療法士》
授業の目的	人間の誰しにも起こる老化の理解を高める。また今後のリハビリテーション分野における対象者の中心となる高齢者の特徴を理解する。さらに症候学を再学習し、若年層と比較してどのようにアプローチをすればよいのか考えることができる知識を身につける。
授業の概要	<p>① 加齢と老化：老化と老人病の考え方</p> <p>② 加齢と老化：加齢に伴う変化 生理機能</p> <p>③ 加齢と老化：加齢に伴う変化 運動機能 精神心理面</p> <p>④ 高齢者へのアプローチ：高齢者の定義 人口動態 高齢者との接し方</p> <p>⑤ 高齢者へのアプローチ：高齢者の機能評価 退院支援</p> <p>⑥ 高齢者に特徴的な症候と疾患：老年症候群 循環器疾患</p> <p>⑦ 高齢者に特徴的な症候と疾患：呼吸器疾患 消化器疾患</p> <p>⑧ 高齢者に特徴的な症候と疾患：骨・運動器疾患 神経疾患</p> <p>⑨ 高齢者に特徴的な症候と疾患：精神疾患 内分泌疾患</p> <p>⑩ 高齢者に特徴的な症候と疾患：血液疾患・免疫疾患 腎・泌尿器疾患</p> <p>⑪ 高齢者に特徴的な症候と疾患：皮膚・口腔疾患 感染症</p> <p>⑫ 高齢者に特徴的な症候と疾患：耳鼻咽喉疾患 眼疾患</p> <p>⑬ 高齢者をとりまく環境：老年学からのアプローチ 高齢者の医療・看護・介護・福祉・保険</p> <p>⑭ 高齢者をとりまく環境：高齢者のリハビリテーション</p> <p>※2 コマは喀痰吸引の講義を実施予定。</p>
テキスト 参考書	標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第3版 医学書院
評価の方法	筆記試験（100 点満点）で成績を評価する。
授業の形式 受講上の注意	座学形式

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	地域共生支援論
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期、1単位、30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	地域共生支援論	
担当講師	小林 憲人、渡部 静	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格：理学療法士（小林）、作業療法士（渡部）》	
授業の目的	地域包括ケアシステムおよび地域共生社会の理解できる。 具体的な支援として、障がい者スポーツと認知症に焦点を当てた支援を実践することができる。	
授業の概要 到達目標	第1-4講 渡部 外部講師	概要：障がい者スポーツについて学ぶ 目標： ・パラリンピック、全国障害者スポーツ大会の競技について説明できる ・障がい者スポーツの支援について理解できる ・パラ卓球について支援の実際を理解できる
	第5-10講 渡部	概要：地域包括ケアシステムについて学ぶ 目標： ・地域包括ケアシステムの概要を説明できる ・地域共生社会までの流れを理解できる ・特定の地域の情報を整理することができる
	第11-12講 渡部 外部講師	概要：地域での認知症者の支援について学ぶ 目標： ・認知症サポーターになる ・チームオレンジについて概要を説明できる
	第13-15講 小林	概要：地域でのリハ職の役割について学ぶ 介護予防とフレイルについて学ぶ 目標： ・理学療法士、作業療法士の役割が理解できる ・介護予防・フレイルについて説明できる
テキスト	なし（適宜資料を配布する）	
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターになる：20点 ・外部講師の講義後の提出物：各15点 ・発表：50点 	
授業の形式 受講上の注意	座学および演習 特になし	

理学療法学科・作業療法学科 2 年

授業科目名	保健医療福祉制度論
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	保健医療福祉制度論
担当講師	岩崎 寛広
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 社会福祉士 》
授業の目的	現在施行されている制度について理解する
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 社会保障制度の歴史、病院の種類① 3. 病院の種類②、医療保険制度① 4. 医療保険制度② 5. 生活保護制度について 6. 年金制度について① 7. 年金制度について②、介護保険制度について① 8. 介護保険制度について② 9. 退院支援について、グループワーク 10. 障害者制度について 11. 障害者サービスについて 12. 家庭・子どもの制度について 13. 虐待防止法について、自然災害時の制度 14. 補足 2025 年問題など
テキスト 参考書	資料配布
評価の方法	定期試験
授業の形式 受講上の注意	講義

作業療法学科 2 年

授業科目名	作業学演習Ⅲ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業学演習Ⅲ	
担当講師	宍戸 聖弥	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①作業基盤や作業焦点の分析を実際に行うことができる。 ②症例に応じた作業分析ができる。 ③体験・観察したことを分析・解釈を行い、文章で記録することができる。	
授業の概要	第 1-2 回	作業分析について <到達目標> ①作業分析とその他の分析の違いを理解できる。 ②作業に焦点を当てた分析の基礎を理解できる。
	第 3-7 回	作業遂行分析について学ぶ <到達目標> ①目的指向的課題とその遂行技能について基礎を理解する。 ②観察の中で作業遂行技能を観察し、記録することができる。
	第 8-10 回	作業に焦点を当てた症例検討 <到達目標> ①作業に焦点を当てた実践に触れ、理解する。 ②様々な治療的枠組みや方法について調べられる。
	第 11-14 回	作業療法介入プロセスモデルやその他モデルを活用した解釈 <到達目標> ①作業療法介入プロセスモデルの概要を理解する ②その他モデルの実践報告を調べ、理解する ③実際に症例情報をベースに統合と解釈や立案ができる
	第 15 回	定期テスト（もしくは課題レポートによる採点）
テキスト 参考書	配布プリント、資料	
評価の方法	課題レポートおよび定期テスト等の合計が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループ演習、オンライン講義など	

作業療法学科 2年

授業科目名	身体障害治療学Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 2単位 60時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	身体障害治療学Ⅱ
担当講師	亀山 一義 渡部 静
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	<p>①：疾患から生じる症状や障害を理解することができる。</p> <p>②：症状や障害によって引き起こされる作業障害を想定することができる。</p> <p>③：作業障害に対し、作業療法プログラムを立案，実施できる。</p>
授業の概要	<p>1. 脳血管障害に対する作業療法（10 コマ：亀山） 《到達目標》</p> <p>①：CT、MRIなどの画像診断を理解することができる。</p> <p>②：脳血管障害の病態を理解することができる。</p> <p>③：回復段階に応じた作業療法評価とプログラム立案ができる。</p> <p>2. 脊髄損傷に対する作業療法（5 コマ：亀山） 《到達目標》</p> <p>①：MRIなどの画像診断を理解することができる。</p> <p>②：脊髄損傷レベルに応じた残存機能を理解することができる。</p> <p>③：脊髄損傷レベルに応じたADLを理解することができる。</p> <p>3. 神経筋疾患に対する作業療法（3 コマ：渡部） 多発硬化症、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症など 《到達目標》</p> <p>①：各疾患の病態、症状を理解することができる。</p> <p>②：各病期に応じた作業療法を設定することができる。</p> <p>③：各病期に応じた作業療法プログラムを立案することができる。</p> <p>4. 神経変性疾患に対する作業療法（4 コマ：渡部） パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など 《到達目標》</p> <p>①：各疾患の病態、症状を理解することができる。</p> <p>②：各病期に応じた作業療法を設定することができる。</p> <p>③：各病期に応じた作業療法プログラムを立案することができる。</p> <p>5. 内部疾患に対する作業療法（5 コマ：渡部） 心疾患、呼吸器疾患、糖尿病など 《到達目標》</p> <p>①：各疾患の病態，症状を理解することができる。</p> <p>②：各疾患に対する作業療法プログラムが立案することができる。</p> <p>③：病態および症状に対する日常生活指導方法が選択できる。</p>

	<p>6. 学外演習 (2 コマ : 亀山)</p> <p>兵庫県作業療法士学会への参加</p> <p>《到達目標》</p> <p>① : 抄録を理解できる。</p> <p>② : 発表内容を理解できる。</p>
テキスト 参考書	<p>標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学</p> <p>標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学</p> <p>脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで</p>
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学

はくほう会医療専門学校赤穂校

作業療法学科 2年

授業科目名	身体障害治療学Ⅱ演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	身体障害治療学Ⅱ演習	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	骨関節疾患の概要と疾患の知識、評価技術を座学と演習を通して身につける。	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の概要について理解し必要性等を口頭にて説明ができる 2. 各疾患について必要な評価項目を列举し、実践できる 3. 各疾患の時期に応じた治療プログラムを考案できる 	
授業の概要	第1-4回	上肢の末梢神経損傷、腱損傷について学ぶ。 <到達目標> ①末梢神経・腱の回復について理解できる。 ②末梢神経・腱の作業療法を考えることができる。
	第5・6回	関節リウマチ及びその類縁疾患について学ぶ。 <到達目標> ①関節リウマチの病態について理解できる。 ②関節リウマチの作業療法を考えることができる。
	第7・8回	スプリントの作成 <到達目標> ①手に適合したスプリントを作成できる。 ②スプリント作成手順が理解できる。
	第9-14回	骨折、加齢性関節疾患について学ぶ。 <到達目標> ①骨関節疾患の病態について理解できる。 ②骨関節疾患の作業療法を考えることができる。
	第15回	定期試験 1-14回までの範囲の知識と作業療法士としての思考を確認する。
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学	
評価の方法	筆記試験：100点中60点を合格とする	
授業の形式 受講上の注意	座学および演習 (オンライン講義を含む)	

作業療法学科 2 年

授業科目名	精神障害治療学Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神障害治療学Ⅱ
担当講師	大谷 将之
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	①精神科作業療法において活用できる理論や実践モデル、治療手技を学び、理解を深める。 ②精神科における就労支援について、モデルや支援方法を学ぶ。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業遂行の観察の視点を学ぶ ・ 精神科を取り巻く就労支援（IPS モデル等）について ・ 精神障害を抱える方への地域での支援（ACT 等） ・ 精神障害を取り巻く支援モデル（リカバリー・ストレングス）について ・ 元気回復行動プラン（WRAP）の概要と実践方法 ・ 認知行動療法の概要と実践方法 ・ SST の概要と実践方法 ・ 様々な治療実践方法（NEAR、SCIT）の紹介 ・ 理論や実践モデルの必要性について ・ カナダ作業遂行モデルの概要と実践モデルについて ・ 人間作業モデルの概要と考え方について ・ 作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）について ・ イタリアの精神保健福祉について
テキスト 参考書	精神機能作業療法学（WEB 教科書） 作業で語る事例報告 資料配布
評価の方法	定期試験，レポート
授業の形式 受講上の注意	座学 復習をしっかりと行ってください。 分からないことは質問してください。

作業療法学科 2 年

授業科目名	精神障害治療学Ⅱ演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期、1 単位、30 時間
成績評価方法	筆記試験

授業科目名	精神障害治療学Ⅱ演習
担当講師	西木悠衣、渡辺なつみ
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	小児期から若年期、高齢期に関わる精神疾患の疾患別障害特性と課題、その作業療法過程と介入方法について学び、全体の復習を踏まえさらに理解を深める。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（講義概要） 2. 各疾患の概論、評価、作業療法について <ul style="list-style-type: none"> ・神経症 ・発達障害 ・依存症 ・摂食障害 ・認知症 3. まとめ
テキスト 参考書	精神機能作業療法学（WEB 教科書） 資料配布
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学およびグループワーク

作業療法学科 2 年

授業科目名	高次神経障害治療学
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 各 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	高次神経障害治療学	
担当講師	渡部 静 (1-7 回), 赤堀 将孝 (8-15 回)	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①高次脳機能障害の基礎知識、病態や発生机序、治療原理について説明できる。 ②高次脳機能の各種評価方法を実践し、作業療法との関連を理解し実践できる。	
授業の概要	第 1 回	高次脳機能障害の基礎 <到達目標> ①高次脳機能の概念と定義が理解できる。 ②高次脳機能障害の基本的評価・アプローチの概要が理解できる。
	第 2-3 回	脳画像 <到達目標> ①高次脳機能に関わる脳の解剖生理の基本が理解できる ②CT、MRI の画像から基本的な部位を同定できる。 ③各認知の領域を担う神経ネットワークの基本が理解できる。
	第 4-7 回	意識障害・注意障害・記憶障害 <到達目標> ①意識障害の概要を知り、評価や介入を挙げることができる ②注意障害の概要を知り、評価や介入を挙げることができる ③記憶障害の概要を知り、評価や介入を挙げることができる
	第 8-12 回	失認症、半側空間無視 <到達目標> ①失認の概要を述べることができる。 ②失認および半側空間無視に対する支援方法を立案することができる。
	第 13-15 回	失語症、失行症 <到達目標> ①失語症の種類が説明できる。 ②失行症の種類が説明できる。 ③失語症者および失行症者に対する対応を説明できる。
テキスト 参考書	能登真一 編：「高次脳機能作業療法学」第 2 版，医学書院。	
評価の方法	・第 1 - 15 回：各単元の小テストの合計が 60 点以上で合格	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク、オンライン講義など 注) 授業概要については順番が前後する可能性がある。	

作業療法学科 2 年

授業科目名	高次神経障害治療学演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 各 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	高次神経障害治療学演習	
担当講師	赤堀 将孝, 渡部 静	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①高次脳機能障害の基礎知識、病態や発生機序、治療原理について説明できる。 ②高次脳機能模擬患者について、問題点を抽出し作業療法を立案できる。	
授業の概要	第 1 回	高次脳機能障害研修 オンデマンド配信 視聴 「高次脳障害がある方の自宅でできるリハビリ」 <到達目標> ①退院後の家庭生活とリハビリテーションについて理解する
	第 2-7 回	事例検討（情報から評価項目を抽出） <到達目標> ①模擬事例について、書面情報から仮説生成により問題点を抽出できる。問題点に基づいて評価項目を挙げることができる。 ②模擬事例について、観察結果情報から仮説生成により問題点を抽出できる。問題点に基づいて評価項目を挙げることができる。
	第 8-15 回	事例検討演習（最終結果を踏まえた考察、レジメ作成） <到達目標> ①模擬事例について、情報動画観察から仮説生成により問題点を抽出することができる。 ②結果から臨床推論を文章化し、抄録にまとめることができる。
テキスト 参考書	能登真一 編：「高次脳機能作業療法学」第 2 版。医学書院。	
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回：提出物 10 点 ・第 2-15 回：提出物 40 点 発表 50 点（進行具合によっては、提出物に置き換える） 	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク、オンライン講義など 注) 授業概要については順番が前後する可能性がある。	

作業療法学科 2年

授業科目名	老年期障害治療学
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	老年期障害治療学	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	加齢による老化、高齢者の心理的特性、高齢者の活動などを理解した上で、高齢期障害の特徴、高齢期障害に対する作業療法について理解する。	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進行していく高齢社会において作業療法士としてのあり方について述べることができる 2. 認知症について理解し、評価から治療までを理解する 3. ペーパーペイシエントによる症例の統合と解釈ができる 	
授業の概要	第1-4回	認知症の作業療法 <到達目標> ①認知症の病態、評価、治療を理解できる ②新オレンジプランの概要を述べるができる
	第5-13回	高齢期の作業療法の実際（症例検討） <到達目標> ①高齢期の作業療法の実際を文献から検討できる ②症例の全体像をまとめることができる ③作業療法士の実践を述べるができる
	第14・15回	兵庫県作業療法学会への参加 <到達目標> ①作業療法実践について学びを深める ②学術集会に参加し、作業療法を研鑽する姿勢を学ぶ
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 随時資料を配布する	
評価の方法	3つの課題の合計で算出する。60点以上を合格とする。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症に関する小テスト 20点 2. 症例レポート 60点 3. 学会に参加して 感想 20点 	
授業の形式 受講上の注意	講義と演習を行う（オンラインを含む）	

作業療法学科 2 年

授業科目名	発達障害治療学Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	発達障害治療学Ⅱ	
担当講師	宍戸 聖弥	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	<p>①発達障害領域のリハビリテーションに対する知識を深め、作業療法士の役割や専門性を理解し、支援するための基礎を学ぶこと。</p> <p>②発達障害領域の作業療法評価および解釈、治療計画の作成、支援の方法を学ぶこと。</p>	
授業の概要	第 1 回	<p>発達障害領域のリハビリテーションについて</p> <p><到達目標></p> <p>①発達障害領域のリハビリテーションや地域での関わりを知る。</p> <p>②様々な発達障害領域で働くリハビリテーション職の現状を知る。</p>
	第 2-5 回	<p>応用行動分析に基づくリハビリテーション</p> <p><到達目標></p> <p>①応用行動分析による子ども支援の概要を理解できる。</p> <p>②実際に応用行動分析を体験し、基礎を理解することができる。</p>
	第 6-8 回	<p>ASD、ADHD、LD 等についてのリハビリテーションや対応について</p> <p><到達目標></p> <p>①ASD、ADHD や LD 等の概要を理解できる。</p> <p>②作業療法評価や計画・実践を理解することができる。</p>
	第 9-14 回	<p>作業療法場面における玩具や治療具の提案と作成</p> <p><到達目標></p> <p>①症例の問題点を考察できる。</p> <p>②症例に対する玩具や治療具の提案・作成できる</p>
	第 15 回	定期テスト
テキスト 参考書	医学書院：小児科学、発達過程作業療法学（電子書籍）	
評価の方法	レポート課題、定期テストの得点合計が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	<p>座学、グループワーク、オンライン講義など</p> <p>玩具作成費用として 1,000～1,500 円程度必要となる予定。</p> <p>上記講義内容について、時間変更や順番変更あり。</p>	

作業療法学科2年

授業科目名	日常生活活動演習Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常生活活動演習Ⅱ	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	作業療法士として必要な MTDLP の知識とその使い方を習得する。 作業療法士の思考過程である動作分析スキルを実習レベル（指導者の指導の元でできるレベル）にする。	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士として身につけておくべき MTDLP について理解し、説明できる 2. 模擬症例に対して MTDLP を用いて検討をすることができる 3. 動作観察が指導の下実施できる 	
授業の概要	第1～4回	生活行為向上マネジメントの概要と解説 各シートの使い方の説明
	第5～10回	模擬症例1～2事例を MTDLP を用いて目標設定から、治療計画の立案までを実施する。 個人ワーク、グループワーク（ワークと発表）を混ぜながら行う
	第11～14回	基本動作の動作分析 脳卒中、切断等の起居動作を観察し、文章化できるようになる
	第15回	筆記試験 症例情報に基づき MTDLP のシートを埋めていく。
	※第1～10回までは、進捗状況に応じて若干前後することがある。	
テキスト 参考書	資料は随時配布する。	
評価の方法	・定期試験：MTDLP シートの活用—100点（60点合格）	
授業の形式 受講上の注意	・講義と演習を行う（オンラインを含む）	

作業療法学科 2年

授業科目名	リハビリテーション機器・職業関連活動
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	リハビリテーション機器・職業関連活動	
担当講師	渡部 静	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	<p>①住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住環境調整アセスメントについて説明できる。 ・主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる。 ・福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる。 <p>②就労支援領域における基本的な作業療法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者の就労制度・支援について説明できる。 ・就労支援における支援内容や作業療法の役割について理解できる。 	
授業の概要	第1－5回	<p>住環境整備と作業療法 <到達目標></p> <p>①自宅の部屋の見取り図を描くことができる。 ②利用者に応じた住環境調整のアセスメントについて説明できる。 ③福祉用具の安全性について説明できる。</p>
	第6－10回	<p>福祉機器・支援機器と作業療法 <到達目標></p> <p>兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター見学(10月予定)</p> <p>①福祉用具・支援機器を体験し、適用や選定ができる。 ②福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる。</p>
	第11－15回	<p>就労支援領域における作業療法 <到達目標></p> <p>就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、地域相談支援等の施設見学、就労体験</p> <p>いねいふる、げんぶ、はくほう施設見学(11月予定)</p> <p>①障害者の就労制度について説明できる。 ②就労支援における作業療法の役割について説明できる。</p>
テキスト 参考書	標準作業療法学 地域作業療法学 第4版 医学書院 配布資料など	
評価の方法	発表 (50点) 提出物 (50点)	
授業の形式 受講上の注意	グループ発表・実習・座学	

作業療法学科 2年

授業科目名	評価実習
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 3単位 135時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	評価実習
担当講師	評価実習指導者
授業の目的	<p>一般目標</p> <p>評価実習先の業務を理解し、職業人として望ましい態度と行動をとることが出来る。</p> <p>対象者に対する評価のプロセスを身につける</p> <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設における作業療法及び作業療法士の役割機能を学ぶ ・実習を系統的に習得し、その技術や考察の方法を習得する ・障害を持つ人に対する作業療法士としての姿勢と、組織の一員としての姿勢を学ぶ。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害系医療機関、介護老人保健施設、精神障害系医療機関での実習を行う。 <p>①対象者に関する情報の収集が行える（観察、面接、テストなど）</p> <p>②収集した情報を分析・統合して全体像を把握する</p> <p>③解決すべき問題点の抽出</p> <p>④作業療法計画の設定（長期目標・短期目標の設定）</p> <p>⑤短期目標達成の為のプログラムを計画</p> <p>実習後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出。 ・実習で学んだことを症例検討にて共有し、学びを深める。
テキスト 参考書	適宜必要文献
評価の方法	<p>実習期間中の成績評価は各実習施設の実習指導者が実施し学校に報告する。</p> <p>実習後の内容を含める。</p> <p>実習施設を4割、学校での提出物および発表を6割として配点する。</p>
授業の形式 受講上の注意	既定の施設にて実習指導者の指示に従う。